

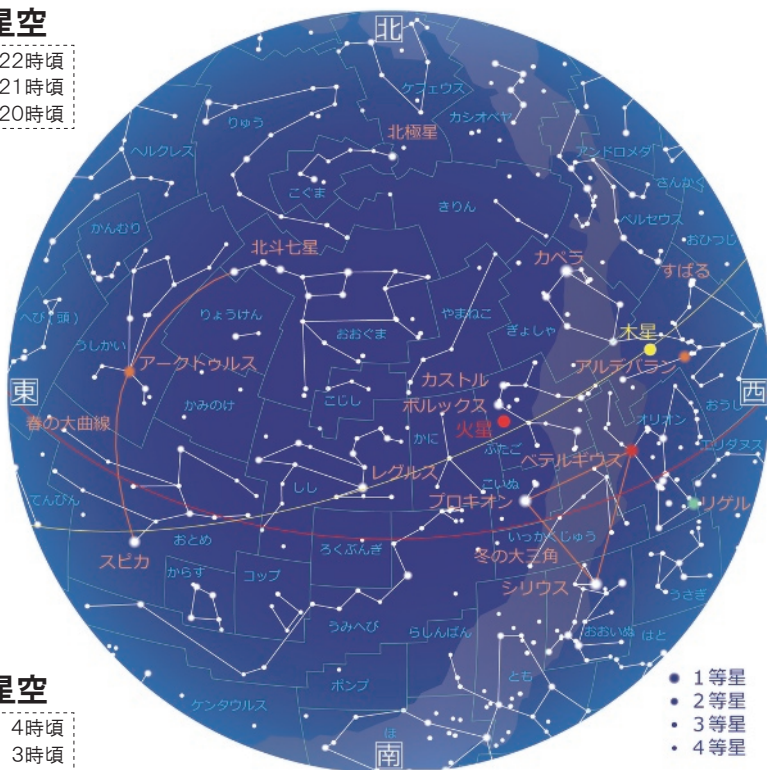
星空ガイド 3月16日～4月15日

よいの星空

3月16日22時頃

4月 1日21時頃

15日20時頃

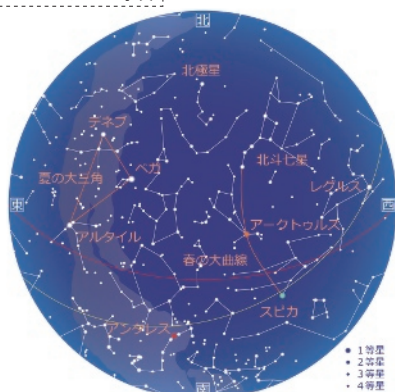


あけの星空

3月16日 4時頃

4月 1日 3時頃

15日 2時頃



〔太陽と月の出入り(大阪)〕

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
3	16	日	6:07	18:06	19:59	6:49	16.1
	21	金	6:00	18:10	--:--	9:24	21.1
	26	水	5:53	18:14	3:59	14:31	26.1
4	1	火	5:45	18:19	7:12	21:52	2.7
	6	日	5:38	18:22	11:56	2:03	7.7
	11	金	5:31	18:26	16:56	4:32	12.7
	15	火	5:26	18:30	20:47	6:11	16.7

※惑星は2025年4月1日の位置です。

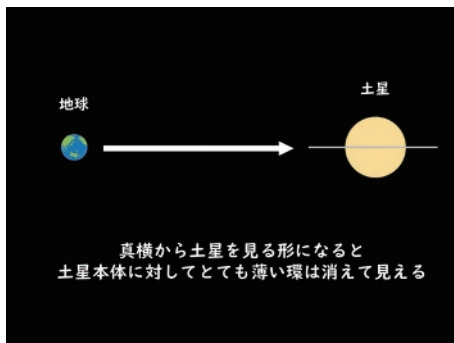
消える土星の環

土星の環が3月24日に“消失”します。消失と言っても本当に消えてなくなってしまうのではなく、土星の環が消えてしまったかのように見えるということです。地球から見た土星の環の傾きは日々変化していて、約15年周期で地球と太陽から環を真横から見られる格好になります。土星の環は土星本体に対して非常に薄いため、その頃に望遠鏡で土星を観察すると、環が消えてしまったかのように見えるのです。

ただ、3月の土星は太陽の近くに見えているため、観察は非常に難しい状況です。その後5月頃には、環がほぼ見えない状態の土星が夜明け前の東の空で観察しやすくなるので、この頃が見えない土星の環を見る好機になりそうです。

逆スーパームーン？1年で最も小さく見える満月

4月13日に見える満月は、2025年で見られる満月のうち最も小さく見える満月になります。ただ、実際に4月13日の満月を見ても「いつもより小さいぞ!」とはあまり感じられないかもしれません。そこでおすすめなのが、撮影時の設定を記録して満月の写真を撮ることです。別の日の満月を、同じカメラを使って同じズーム倍率で撮影し、写真を並べて見比べてみると大きさの違いがよくわかります。ちなみに今年は、11月5日の満月が1年で一番大きく見える満月(スーパームーン)になります。1年で一番小さく見える月と大きく見える月は実際にどれくらい大きさが違って見えるのか、ぜひ確かめてみてください。



野村 美月(科学館学芸員)

【こよみと天文現象】

月	日	曜	主な天文現象など
3	16	日	月とスピカがならぶ
	17	月	彼岸の入り
	20	木	春分の日/春分(太陽黄経0°) 海王星が合
	21	金	月とアンタレスがならぶ
	22	土	●下弦(20時)
	23	日	金星が内合
	25	火	水星が内合
	29	土	●新月(20時)

月	日	曜	主な天文現象など
4	3	木	月と木星がならぶ
	4	金	清明(太陽黄経15°)
	5	土	●上弦(11時)
	6	日	月と火星がならぶ
	12	土	ユダヤ歴過越のはじまり
	13	日	○満月(9時)
	14	月	月が最遠(8時・406311km) 変光星くじら座ミラ(2.0~10.1)等の極大